

祈りの友のみなさまへ

2014年8月

アリゾナにもどってきました。日本では、猛暑の毎日が続いているようですが、こちらはまだモンスーンの時期です。今日も、夕刻から空一面に暗雲が立ちこめ、稲光と雷の序奏のあと、天と地を結ぶ何本もの＜雨の柱＞が押し寄せてきました。この天の底が抜けたよう豪雨が砂漠の草花の息をふきかえらせます。サボテンの花が色鮮やかです。『日本ふれあいの旅2014』では、今回も多くの人々に各所で助けていただき本当に心から感謝申し上げます。

やっと、8月からの放送番組もラインアップできました。首を長くして待っておられるリスナーの皆様のために、まずは、各地で開かれた「HCJBリスナーの集い」の模様をお伝えすることにします。Reach Beyond (HCJB) 最高責任者二人を迎えての那須高原教会での様子を皮切りに、岡山、琵琶湖、関東、仙台で収録したリスナーとのふれあいインタビューが続きます。

今年はクリスチャン女流作家三浦綾子さんの作家デビュー50年にあたるので、6月～7月は、代表作である「われ弱ければ-矢島楫子伝」を「アンデスの声」のアーカイブ番組「ラジオ図書館」から再放送することにしました。この本は1991年に三浦先生の自宅にお邪魔したときに、直接いただいたもので、朗読は亡妻の久子が担当しました。この番組をきいたリスナーから思いがけない多くの反響の手紙が寄せられました。

- * 朗読がすばらしいです。とても聞きやすく、一言一言が体のなかにスッと入ってくるようです。校長代理の楫子が「聖書があります。自分で自分を治めなさい」と将来を考えて自分で判断することを生徒に諭すさまは、現代の教育に最も欠けていることではないかと感じました。
- * 久子夫人の若々しい声をひしひぶりに聞くことができました。本当に懐かしく、癒されます。機会があればこれからもこのような番組を放送してください。
- * 高齢にもかかわらず4度も海外で講演や募金活動をされた主人公には胸が熱くなりました。「天国は、日本からでもアメリカからでも距離は同じでしょ」との言葉は、神に身をまかされたものの生き方だと感銘しました。明治女性のたくましさと息吹にいろいろと考えられる番組でした。

三浦綾子さんも、久子も、地上での生涯を閉じましたが、この世から去ったとはいえ、私たちに生前影響を与えた本質的なものはずっと残って、私とともに生き続けているような気がします。＜人が死んでのちに残るのは、集めたものではなくて散らしたものである＞ 主イエスもその尊い命をすべての人々のために捧げられました。私たちも得たものを、散らし与えたいものです。



7月には、ロサンゼルス市沖合のサンタカタリナ島のバイブル・キャンプに行きました。各教会から多くの家族が参加して聖書の学びと交わりの楽しい一週間でした。写真は孫のエミ（10歳）とサム（13歳）です。

では、また次のお便りまで。



リーチビヨンド宣教師
(HCJB日本語放送担当)

尾崎一夫